

ベランダでも育てられる ミニトマトのコンテナ菜園

写真・文：園芸研究家●淡野一郎

写真 © ICHRO AWANO

ミニトマト

初心者は苗から始めよう マメな追肥と水やりで草勢維持

トマトの遠い先祖は、南米アンデス高原で生まれました。大玉トマトは、最後に行き着いたメキシコの標高2000m付近で大ぶりに発達したのに対し、ミニトマトは中米を経てメキシコへ至る標高0～2000mのさまざまな環境で広く自生しています。そのため大玉トマトが涼しく乾燥した環境を好み夏は苦手ですが、ミニトマトは過酷な日本の環境でも栽培しやすいです。

ただ丈夫であるが故に果実が付き過ぎ草勢が弱くなりがちです。そこで第2花房の着果から週1回追肥を施して草勢を維持します。果実が割れやすいのも欠点です。特に収穫前が雨だと割れやすいので早めに収穫を。雨に当たらないように軒下へ鉢を移動するのも方法です。品種は、草勢が強く、耐病虫害性があり、裂果しにくい高糖度品種を選びます。

ミニトマトの栽培方法

1 種まき

直径12cmのポリ鉢に市販の野菜用培養土を入れ、深さ約1cmのまき穴を3ヵ所開け、1粒ずつ種をまく(写真1)。種に土をかけ、土表面を手で押さえたら水をやる。5～7日で芽が出るまでは土が乾かないよう注意する。出芽後は土を乾かし気味にする。



ポイント 2～3月の種まき・育苗は加温が必要、難しい場合は夜温が確保できる4～5月に若葉を購入し、直径12cmの鉢へ植え替え育苗するか、5月お盆に種まきする。

2 間引き

本葉2枚までに1株に間引く(写真2)。

ポイント 子葉が十分開いた頃とその後30日の2回、肥料(IB化成)1粒を鉢縁に指で押し込む。



3 植え付け

最初の花房のつぼみの色が黄色くなってきたら遅れず植え付ける。直径39cmのポリ鉢に培養土を入れ、中心に深さ約15cmの植穴を開ける。

植穴へIB化成約6.2gを施し、根と肥料が触れないように土を少し入れたら(写真3)苗を植え付ける。さらに長さ75cmほどの仮支柱を斜めに挿してひもで誘引し、最後にしっかりと水やりする(写真4)。



※温暖地を基準に記事を作成しています。



病気に強く、裂果が少なく、肉厚で甘みが強い多収のプラム型のミニトマト

【基本情報】

- 分類：ナス科ナス属
- 原産地：南米ペルー(アンデス高原)、(次中心)中米・北米(メキシコ)
- 発芽適温(地温)：25～30度
- 生育適温(気温)：昼間25～30度、夜間13～20度
- 日当たり：日なた ●好適pH：6.0～6.5

【病害虫情報】

トマトサビダニ：下葉が褪色し、やがて茎や果実が褐色色になる。乾燥で多発。真夏はまめに水やりし、発生したら早めに薬剤を。アザミウマ類：果実に蚊に刺されたような白影れ症状に。ウイルス病も伝染させるので、早めに薬剤で防除する。



4 支柱立て

茎が伸びてきたら、高さ150cmのリング支柱を立て、外周に沿って茎をらせん状にひもで順次誘引する(写真5)。

ポイント わき芽は通気や採光を確保し、病虫害の発生を抑えるため早めに取り除く(写真6)。



5 授粉

放っておいても実は付くが、支柱を棒で細かくたたくと花粉が舞いよく実が着く。

ポイント 真夏は高温で実が付きにくくなる。ホルモン剤(トマトーン)を散布して着果を促す。1花当たり3～4日置きに3～4回花に処理する(写真7)。



6 収穫

最初の収穫は、第1花房開花後50日程度。熟して裂果する直前が味や栄養も最高(写真8)。収穫適期は3日ほどなので時期を逃さず収穫する。

ポイント 第2花房の果実が着く頃から週1回化成肥料(NPK各成分8-8-8)約14gを施し、水やりして草勢を保つ。



栽培カレンダー

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
育成地	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
適地地												

●植生　▼植え替え　▼支柱付け　===== 加温　—— 保溫　■■■ 収穫

果樹



12月・R8年1月の柑橘園管理



果樹
木蜜 栄次
上島營農指導センター
080-1759-0088

1. 病害虫防除

品目	対象病害虫	防除時期	農薬名	希釈倍数
温州	越冬害虫	12／下～1月／中	ハーベストオイル	60倍
中 晩 柑	貯蔵病害	収穫前	ベルクートフロアブル	2,000倍
			※ベンレート水和剤	4,000倍

※ベンレート水和剤の代わりに トップジンM 水和剤 2,000倍も使用可。

2. 樹勢回復対策

- 収穫が終わった品種ではまず十分にかん水を行い、その後チッ素主体の葉面散布で樹勢回復対策を行いましょう。

施肥時期	資材名	使用倍数 又は袋数	備 考
葉面散布 (N主体)	尿素 又は 神協スピリツツ 又は ニューアミノジューシーN 14	500倍	いずれかを使用し、収穫後3回以上集中散布を行いましょう。
施 肥	ハイヤ 1号	4袋／10a	温州みかん対象



花卉

「あまくさ産」花きブランド力向上と販売
力強化にむけて：関東花き市場産地訪問

花 卉

吉澤 清
下島營農指導センター
080-1774-5386

JJAあまくさは、11月11日、12日の2日間にかけて、関東花き市場から3人の視察団を受け入れました。大矢野町のカスミソウ農家、松島町のキンギョソウ農家、新和町のトルコギキョウ農家の圃場を訪問。コロナ渦以降、花きの需要が回復し、産地間の競争激化が予想される中、「あまくさ産」ブランド力の向上や正確な情報発信、有利販売について積極的な意見交換がなされました。岩本俊治部会長は「実際の生産現場や風景を見てもらうことで、『あまくさの花』のファンを増やしたい。買參人と話すことで、栽培意欲もさらに高まりました」とコメントしました。



花き生産者との意見交換



カスミソウの圃場を視察する様子